

令和5年10月12日

四国工業研究会 会員各位

四国工業研究会セミナー（デジタルヘルスケア融合研究開発）

【開催日】令和5年11月7日（火）13：30～16：05

【場 所】産総研四国センター講堂&オンラインのハイブリッド開催

【主 催】四国工業研究会

【参加費】無料

【申込方法】締切 令和5年11月6日（月）

以下の申込フォームからお申し込みください。お申し込み後にメールにて、接続先（Zoom）をご案内します。（13：00より接続可能です）

https://zoom.us/meeting/register/tJlvdumtrjwjGNKi6O1gYV_qvSneqtFnEFYN

※Zoomのフォームを使用しているため、会場参加を希望されている方にも、Zoomの参加URLが自動的に送信されますので、ご了承ください。



【開催概要】

社会課題の解決を目指す産総研の領域融合プロジェクトのうち、生命工学領域、情報・人間工学領域、計量標準総合センターの領域融合研究（デジタルヘルスケア）について、紹介致します。

プログラム

13：30～13：35 開会挨拶

13：35～13：55 丸山 修 総括研究主幹 生命工学領域 健康医工学研究部門

ラボ長 生命工学領域 次世代治療・診断技術研究ラボ

講演タイトル **ユニバーサルメディカルアクセス実現に向けた医薬品・医療機器の開発と社会実装への取り組み**

講演要旨 ユニバーサルメディカルアクセスは、2040年の本邦における健康・医療の理想的な姿について議論された概念である。誰もがいつでも、どこでも、どんな状況でも不安無く質の高い医療・介護にアクセスできる、あるいは提供できる究極の医療アクセシビリティの事を指す。融合ラボは、ユニバーサルメディカルアクセス実現に向けて、医薬品・医療機器の開発を行い社会実装を目指している。その取り組みについて紹介する。

13：55～14：15 小峰 秀彦 研究部門長 情報・人間工学領域 人間情報インタラクション研究部門

講演タイトル **生活に溶け込むヘルスケア技術の研究開発**

講演要旨 日本の少子高齢化が進む中、健康寿命の延伸は本人のQOL維持はもちろんのこと、医療費や介護費の低減、労働力の維持等の観点からも重要である。健康維持・増進に関する研究は古くから取り組まれ、様々なエビデンスが蓄積されているが、運動、食事、睡眠に配慮することが重要であることは研究者だけでなく、一般にも浸透した事実である。皆が理解しているにもかかわらず実行できていないことに健康寿命延伸の課題があると我々は考えて、生活の中でさりげなく心身状態をモニタリングするとともに、個人の特性に応じて健康行動を促すための研究開発に取り組んでいる。産総研の研究領域を横断し、総力を発揮して取り組む「生活に溶け込むヘルスケア技術」を紹介する。

14：15～14：35 佐藤 洋 次長 研究戦略企画部（兼）情報・人間工学領域 副領域長

講演タイトル **Quality of Life(QoL:生活の質)を技術で向上できるのか？**

講演要旨 人の一生は家庭環境、物理環境、社会環境などの環境により支えられ、環境の中で活動する個々人の心身の状態が生じる。心身の状態および環境の状態を表現するための技術があれば QoL は向上しそうである。そのためには、それらを予測するための技術、それらの状態をより良くするための技術、の3つの技術が必要であり、さらにこれらの技術を活用するための方法論や社会的基盤が必要となる。一方、技術の運用をしようとしたときに、社会的制度が主に介護、医療、健康増進・管理とに分断されていることによる障壁がある。これらを相互接続しようとする試みもあるが、なかなかうまく行かない。そこで、技術が社会制度を越えようとしたときに、どんな方法論や社会的基盤が必要になるかについて、冒険してみたい。

14：35～14：45 休憩

14：45～15：05 達 吉郎 部門長 生命工学領域 健康医工学研究部門

藤本 雅大 研究グループ長 生命工学領域 健康医工学研究部門

運動生理学・バイオメカニクス研究グループ

講演タイトル **四国センターで推進するヘルスケア融合**

講演要旨 講演前半で達より、少子高齢化の進む四国地域での健康医工学研究部門の取り組みについて、最近のトピックスや5つの研究グループの概要紹介を行う。講演後半では藤本より、新たに導入された身体動作計測関連の設備と、身体の生理・運動機能の観点から人の健康維持・増進を目指す新グループの取り組みについて紹介する。

15：05～15：25 小島 時彦 次長 研究戦略企画部

（兼）計量標準総合センター 副総合センター長

講演タイトル **生体機能計測の研究開発と計量標準総合センターの紹介**

講演要旨 生体機能計測は、生体への刺激量およびそれに対する生体からの反応量・感応量の計測をはじめ、広く生体に関わる計測を扱います。講演の前半では、現在、産総研で実施している生体機能計測に関わる研究開発プロジェクトの概要を紹介しします。また、生体機能計測に関わる所内融合研究の活性化、さらには外部ステークホルダーとの連携推進に貢献することを目的とした取り組みについても紹介しします。後半では、生体機能計測をはじめ、様々な計測・計量に必要な計量標準の整備と普及を進めている計量標準総合センター（NMIJ）の活動概要を紹介しします。NMIJ は、持続可能な社会の構築、生活・環境の評価と向上、産業の国際競争力強化への貢献を目指し、国家計量標準機関として、国が整備すべき計量標準の開発・供給と利活用促進、計量標準の普及、計量標準に関連した計測技術の開発、法定計量業務の実施と人材の育成に取り組んでいます。

15：25～16：00 パネルディスカッション

16：00～16：05 閉会挨拶

登録いただきましたメールアドレス等の情報は、個人情報保護法のもと適切に管理し、本研究会に関する確認・連絡及び産総研主催のイベント案内にのみ利用します。